

**HEARTS BRIDGE “イマワタシタチニデキルコト”**  
**東北地方太平洋沖地震復興支援活動についてのご報告。**  
(6.13「東日本大震災復興支援活動」に名称変更)

被災地レポート「“希望を”～被災地の本当の復興の為に・・・。」

2011年3月11日14時46分に東日本大震災は発生しました。

震災直後の3月14日からハートブリッジで始めた“イマワタシタチニデキルコト”“東日本大震災復興支援活動は、5月末時点で、76名＝金5,018,230円のご寄付をいただいております。

ハートブリッジでの“イマワタシタチニデキルコト”東日本大震災復興支援活動では、「本当に被災地の方々に必要なモノ・コトに直接使っていただける支援を。」と言う思いから、岩手県気仙郡在住の私の友人である村上氏を通じて、被災地の情報をいただきながら、この3ヶ月間、各地のボランティア活動を通じて、多くのボランティア団体・被災地自治体・避難所の方々からお話をお伺いさせていただいております。

震災直後の停電により、電力復旧＝TVやインターネットが回復するまでの数日～数週間、被災地の方々は、これだけ大きな津波による被害が広範囲に渡って起こったと言う事実を映像で知る事が無かったと言う事実。

一部の心ない議員の、形式上の現地視察＝写真撮影だけして数十分で帰ってしまうようなコトがあった事実。

被災地や避難所などから、金品を盗難する他県から来るグループが多発していたと言う事実。

多くの物資が、日ごと・週ごと・月ごとに変わる被災地のニーズに対応する事が現実的に難しい問題が沢山ある事実。

被災地の被災者と共に、全国から集まって来ている災害復興救助隊の方々の現地滞在環境が整っていない問題がある事実。

etc...

現在は改善された問題もあれば、現在もなおまだまだ解決されていないたくさん  
の問題が、被災地にはあります。

すべて、現地の被災者の方々とそれをサポートしている現地に滞在しているボ  
ランティアの方々や災害救助隊の皆様が、自らの手で解決してきているのが現  
状です。

現在、8月末までには、すべての仮設住宅が設置される予定で、各地域で仮設住  
宅の建設が最大の急務として進んでいます。

私の友人である村上氏も、岩手県気仙郡住田町が進めている木材を使用した仮  
設住宅＝住田式仮設住宅の建設に携わる一人であり、坂本龍一氏が代表を務め  
る、more trees 被災地支援プロジェクト LIFE311(<http://life311.more-trees.org/>)  
がこの仮設住宅を支援する事が決定しています。

仮設住宅の予定が見えてきているそんな中、被災地のすべてで現在共通して大  
きな、そしてこれから先ずっと長く続く問題となるであろうとされているのが、  
“これから先の希望”です。

避難所の被災者の方々。在宅被災者の方々。すべての被災者の方々が、多くの  
「心の問題」と「雇用の問題」を抱えています。

この二つの問題には、希望が不可欠です。

「希望」を被災地の被災者の方々に与えられる活動とはなにがあるのだろう・・・

そんな中、先日の6月4日・5日にお伺いした岩手県釜石市で、「復興食堂」と  
「浜のミサンガ」と言うプロジェクトを進めている団体の方々と直接お会いし  
お話を伺う事ができましたので、ぜひ、皆様にご紹介させていただきます。

**「復興食堂」とは・・・**

この活動は非常に明快です。

被災地での炊き出しのボランティア活動を震災後からずっと継続している団体  
の活動です。詳しくはぜひオフィシャルサイト (<http://iwate-fs.net/>) をご覧頂  
きたいのですが・・・ほぼ毎週末被災地へ出向き、すべて持ち出し・持ち込み

で設営から炊き出し、さらに、この場でさまざまな“集いの場”を提供し続けているのです。

食堂には、多くの“人”が集まります。人が集まる事によって交流の場となり、悲しみや苦しみや怒りを打ち明ける事によって、独りで抱え込んでいる心の問題を解消する場として。また、さまざまな喜びや楽しみ＝笑顔も提供している場にもなっています。今では、多くの被災地や地域から出張要望も多く寄せられているそうです。

この先の活動のビジョンに関しても、「ゆくゆくは、この復興食堂を、被災地の方々の手によって、各被災地域で活動できるようにして行きたい。」という想いを持っていらっしやいます。

「心の問題」と「雇用の問題」を考えられている素晴らしい活動です。

### 「浜のミサンガ」とは・・・

震災後3ヶ月目の先日6月11日からスタートしたプロジェクト＝「三陸に仕事を！プロジェクト」の第一弾として・・・

今回の津波の被害に遭われた多くの太平洋沿岸で生活していた方々の大半は、漁業に携わる人達でした。その漁業の再開の目処が立たない事。それは、多くの被災者の方々の希望が持てないという現実が、大きな問題となっています。その漁業に携わる男達を支えている女達＝浜の女性達が自らの復興活動として、浜の網を使用してひとつずつ自らの手で丁寧に想いを込めて編んだミサンガを、浜の女性達の新たなイマデキルコト＝仕事（雇用）として始まったプロジェクトです。こちらも詳しくは、オフィシャルサイトをぜひ観ていただきたいのですが (<http://www.sanriku-shigoto-project.com/>)

今回創られた約2分間の今回の為に創られた映像は、非常に心を打たれます。浜の女性達の強さ・明るさ・この先の未来への力・希望。すべてを感じられる素晴らしいプロジェクトです。

どちらも、被災地の方々の手による、復興活動です。

つきましては・・・ハートブリッジの“イマワタシタチニデキルコト”東日本大震災復興支援活動は、この度の多くの方々からいただいている支援金の支援先として、この2つの活動を支援＝サポートする事を決定いたしました。

支援の詳細に関しては・・・

「復興食堂」（いわて三陸復興食堂プロジェクト）に対し、

＝ 金 4,000,000 円の復興食堂支援金としての寄付。

「浜のミサンガ」（三陸に仕事を！プロジェクト）に対し、

＝ 1000 本（金 1,100,000 円分）の浜のミサンガの購入。

※ 現在、大量購入に関しては、作り手の方の人数&材料の確保の問題により、受け付けられない状態になっていますが、購入可能になり次第随時、「浜のミサンガ」をハートブリッジにご協力いただいた方々に対して、ハートブリッジよりお贈りしたいと考えています。

また、今後も、「復興食堂」・「浜のミサンガ」の活動に関しては、両サイトをハートブリッジの東日本大震災復興支援先として、皆様に直接ご支援いただけるようご紹介をさせていただきます。

同時に、ハートブリッジでの東日本大震災復興支援金の受付も引き続き継続し、ご寄付いただいた支援金の支援先に関しては、新たな支援先＝プロジェクトに寄付させていただきたいと考えております。

ハートブリッジのメッセージ～つなぎたい・ひろげたい・しってほしい。

皆様のご協力で、この二つの活動をぜひ多くの方にひろげていただけますよう心よりお願い申し上げます。

今後とも、継続的なご支援も併せて、何卒よろしくお願い申し上げます。

2011年6月13日

HEARTS BRIDGE・主宰／斉藤祐一郎